



御修復のあゆみ 〱 伝承された先達の願い 〱

阿弥陀堂の木部の傷みの状況を確認

六月号で既報のとおり、現在、阿弥陀堂の屋根下地である土居葺板等を一部めぐり、木部の詳細な調査が行われています。本来、この部分については工事が開始された中で損傷状況などが順次把握されるのですが、このたびの御修復では工事に先んじて調査を行うことで、効率的かつ効果的で確実な仕事を目指しています。

この調査によって、阿弥陀堂木部の傷みの状況が明らかになってきました。御影堂御修復の際には、軒先の不陸(軒

先がそろっておらず、波を打っているような状況)が顕著であり、その調整のため軒先部の土居葺板をほぼすべてめくって工事を行うなど、土居葺工事の比率が高くなっていました。阿弥陀堂においては、御影堂のような顕著な軒先の歪みは確認されず、土居葺板自体も御影堂に比べ損傷度合いが低いことが確認されました。これにより、当初一つの工事として想定していた土居葺工事は、その分量が少なくなったため、木工事の一部として修理を行うことが合



調整前

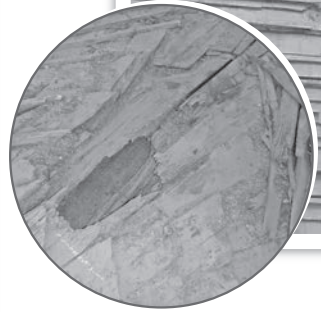
御影堂軒先



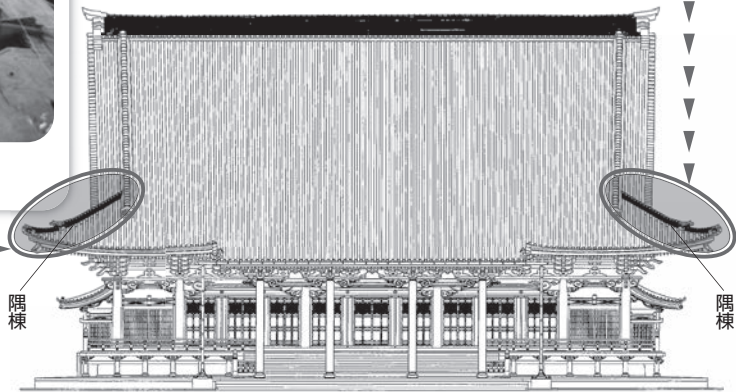
調整後

理的とわかりました。しかし、隅棟と呼ばれる屋根面出隅の稜線部分には、土居葺板はもちろんのこと、その下地を支え、阿弥陀堂の四隅の屋根の先端部分を支えて

隅棟の周辺の土居葺板も激しく傷んでいました。



松の隅木が大きく腐り落ちています。



隅棟

隅棟

いる隅木と呼ばれる箇所の傷みが激しいことが判明しました。これは、御影堂御修復の際にも傷みが確認された箇所でもあり、緩勾配のため雨水が浸入しやすく、比較的傷みやすい弱点の箇所でもありません。特に、阿弥陀堂北西角にあたる隅木の傷みが激しく、雨水の浸入によって、大きな松の木が腐朽菌に侵され、大きく腐り落ち込んでいる状況となっていました。

修復方針は、今後詳しく検討されますが、御影堂御修復の際には、腐朽した部分を取り除き、埋め木処理などが施されていることから、今回もその方法が考えられています。

— 御修復現場のライブ映像配信中! —

御修復工事の管理に使用するカメラ映像を利用して、日々に変化してゆく阿弥陀堂および御影堂門の工事状況の“今”の様子を公開しています。ぜひ、アクセスしてみてください。

東本願寺ホームページのライブカメラでご覧いただけます。
<http://www.higashihonganji.or.jp/about/broadcast/>

